



直峰通信

令和3年12月21日(火)発行

17日夜からやってきた寒気が、安塚のみならず日本各地に雪を降らせました。紅葉していた山や野は葉を落とし、色を落とし、校舎の窓から見える木々は冬の強い風に吹かれながら静かにたたずんでおります。

この1年も終わりにさしかかりました。外のたたずまいとは裏腹に、今年も世の中は大小いろいろな出来事がありました。そのような中、感染症対策などを主なものとして、保護者、学校関係者の皆様には、さまざまに御対応いただき、ありがとうございました。

世界史の大きな流れの中では、幾度か感染症に見舞われる時があったようです。そのたびに大きな痛手を被りながら、人々は英知を結集して、病に対抗するすべを見出してきました。そして今またその時を迎えているようです。世界の人々を救うような薬の開発を今私たちにはできなくても、身の回りの人たちや自分を守るために、学校でも家庭でも毎日できるような基本的な予防を続けることが大切だと考えます。

学校の様子を直に伝える機会や直接学びを請う機会は制限されておりますが、その中でも、生徒は高校生ならではの工夫を凝らし、また教員も生徒個々に寄り添い、一人一人が自己を高めていけるよう、学校生活を送っております。この中から、将来、地域の人たちを救ってくれるような大きな仕事をやってくれるそんな人材が育ってくれたら、と夢は膨らみます。一人一人の若い者達の可能性を思い描き、この冬を送りたいと思います。行く年来る年、今後とも御支援御協力のほど、よろしくお願いたします。



薬物乱用防止講座 12月15日

「くすりはリスク」…決められたルールを守らずに薬を服用することが乱用につながってしまいます。市販の薬でも、正しい時間に正しい量を、正しい飲み方で服用することが大切です。このような話から、今年新潟薬科大学の城田起郎先生の講義が始まりました。

講義はクイズ形式で進んでみたり、また、薬を水やお茶で溶かすとどのように反応するかを生徒に実験してもらいながら進むなど、生徒参加型の賑やかな講義となりました。ネットで簡単に禁止薬物ともつながってしまう昨今、若年層では大麻で検挙される数が増えつつあり、また「オーバードーズ」(処方薬や市販薬を過剰摂取すること)という言葉が広まっているように、禁止薬物ではない市販薬を使っただけの誤った服用が広がっているようです。薬物を誘われたらどうするか、講師の先生が勧誘役になり、生徒に声をかける場面も設けられました。生活の場面で活かしたい講義となりました。

薬は副作用があるなかでも、薬学者さんや薬剤師さん、お医者さんが主作用だけを活かすようにつくられているんだと思いました。だからこそ自分も薬を飲むときは、気



サンタに衣替えした講師城田先生と実験に参加する生徒達

をつけようと思いました。麻薬なども誘われることは少ないと思うけど、もしそんなことがあったらハッキリ断れたらいいなと思います。そのほかにも話題を変えたり、その場を離れたりして、薬物は絶対にしたくないです。(1年女子)

人権教育講演会 11月11日

安塚分校の令和3年度の人権教育のテーマは男女共同参画社会です。この講演の予習として、生徒は1週間前に3種の動画を視聴し、世界各国と比べるといまだ男性主体の日本社会の現状について学びました。11日の講演会、人権擁護委員、富坂一長さんより、「ジェンダーギャップってなに？ 私とあなたの人権について考える」と題して講演をいただきました。内容は家庭や社会におけるジェンダーの問題から、人権、いじめなどにも及びました。これから生きていく上で「安心・自身・自由・成長」この4つを大切にしてほしい……この4つの言葉が生徒の印象に残っていました。講演後も振り返りの時間を持ち、これからの心構えなど再確認して、この講義を心に留めています。



今回の講演を聞いてわかったことは、男女の今までの「あたりまえ」をなくすことです。「男だから重いものを持って」や「女だから〜だ」などはその人を制限していて、自由が奪われてしまっています。職業を何にしようが自分の自由なので、自分からも相手からも制限されないようにしたいです。そして、自分の友達の安心を守れるようにしたいです。自信については時々、相手の肯定感を低めるような言葉を使ってしまうことがあるので、これからは気をつけていきたいです。(2年男子)

マラソン大会 10月22日

小黑川沿いの心も体も澄みゆく景色の中を今年も生徒達は走りきりました。あるものは颯爽と、あるものはマイペースをしっかりと維持して、楽しくそしてきつい思いと向き合いつつ、男子は8キロ、女子は5キロ先のゴールを目指しました。

昨年同様、今年のマラソン大会も最後に、印象深い美しい光景を目にしました。ずっとゴール付近に残っていた上位でゴールした選手達が、なかなか現れない最後のランナーを迎えようと3人連れだって数百メートル戻ってそのランナーを見つけ、ゴールまで併走してくれました。写真〔下〕のように寄り添い、背中を押すかのようにやってきて、最後はみんなで、支える職員もみんなでゴールの達成感を、幸せな達成感を味わいました。一番長い時間走ったランナーと、人より少し長い距離を走った彼らのおかげで、オリンピックでは見られないような安塚ならではの名場面を見ることができました。



12月、1月行事予定

12月24日(金) 終業式、球技大会	1月7日(金) 始業式、課題考査
27日(月)～1月6日(木) 冬季休業	15日(土)～16日(日) 大学入学共通テスト
29日(水)～1月3日(月) 学校閉鎖	21日(金)～26日(水) 3学年学年末考査
	28日(金) 1,2年スノーボード実習

新潟県立高田高等学校安塚分校

〔担当:教頭 沢田貴博〕

〒942-0411 上越市安塚区下方129番地
HP <http://www.takada-h.nein.ed.jp/>

電話 025-592-2306 FAX 025-592-3541
mail school@takakayszk-h.nein.ed.jp